神田警察通り道路整備について

１　神田警察通り沿道賑わいガイドラインについて

２　街路樹について

３　足もとの緑について

４　新たな景観の維持管理について

1　神田警察通り沿道賑わいガイドラインについて

・ガイドラインと道路整備の内容について

※本ガイドラインの内容は、今後、地域の方々との協議やまちづくりの動向をふまえ、必要に応じて発展、改良していくことを想定しています。

※ガイドラインP1から抜粋

【パーキングメータの整備】

ガイドラインの内容

○荷捌きや駐車の制限
- 神田警察通りのパーキングメーターは、原則として廃止する。
- 駐車や荷捌きには、原則として周辺のパーキングメーターやコインパーキング等を活用する。

※ガイドラインP6から抜粋

これまでの議論内容

協議会での議論：大型車両などの違法駐車が問題である。

警視庁と協議：現状の利用状況から考えるとすべて撤去は不可。
1日あたりの利用台数が2台以下は撤去検討。
大型車両を停めにくくする道路の形を検討。

確認事項

・パーキングメータについて、原則廃止と記載があるが、現況のパーキングメータから減らす方針で整備する。

【一ツ橋交差点～中央通りまでの台数】

現況　105台　→　計画　56台

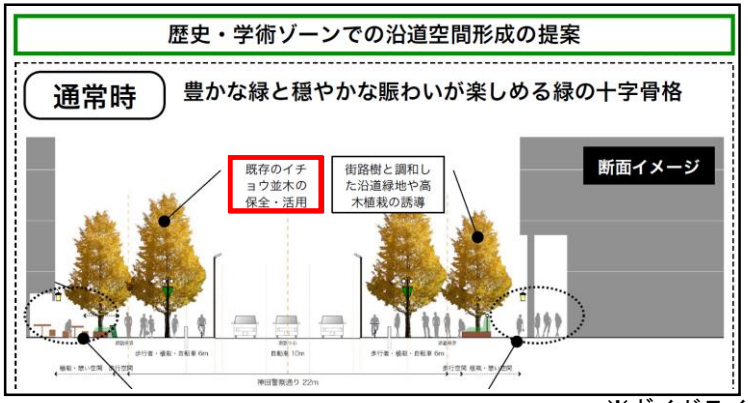
49台　減

【街路樹について】

ガイドラインの内容

◎緑の基軸としての街路樹の保全・育成
- 豊かに育った既存の街路樹を活用する（白山通りのプラタナス、共立女子前のイチョウなど）。

※ガイドラインP10から抜粋



※ガイドラインP12から抜粋

これまでの議論内容

協議会：イチョウは、落ち葉や銀杏が落ちる問題があるので更新したい。
季節を感じる木が良い。落ち葉が少ない木が良い。

アンケート調査：植替えを含めて課題解決してほしいが最多。※47%

確認事項

・Ⅱ期工事の区間の街路樹は、全て更新とする。

２ 街路樹について

●街路樹整備の考え方について

１道路管理者の考え

・建築限界（高さ）の確保<道路構造令>を順守
・建物との離隔(0.5m)

２学識経験者の意見

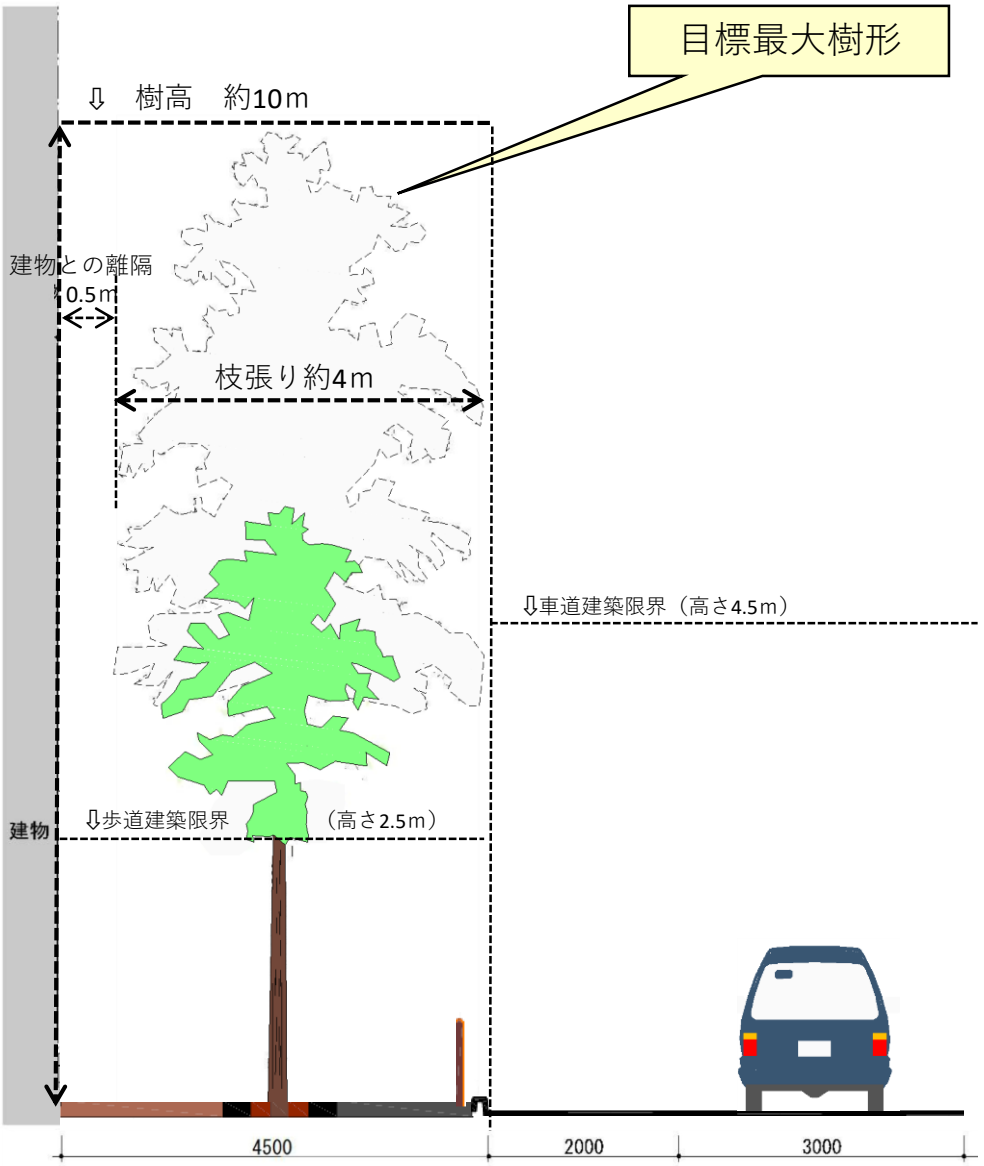
・樹高4m～5mほどの小さいものを大きく育てるといい
・ゾーン毎の特色を持たせると面白い
・樹形の美しさとメンテナンス費を考慮

３協議会の意見

・桜の動線ができたらいい
・イチョウを新しい木に変えていきたい
・全部同じ樹種いするのは、良くないと思う
・花・葉・枝が落ちやすい木はやめたい

４アンケートの結果

問「神田警察通りの街路樹には、どのような樹木が相応しいと考えますか？」
・1位　街路空間に適した樹木
・2位　落ち葉の少ない樹木
・3位　病害虫の少ない樹木
・4位　花の咲く樹木



街路樹植栽のイメージ

２　街路樹について

樹木選定　候補一覧

樹 木 名	サクラ‘陽光’	サクラ‘オカメ’	マグノリア‘ワダスメモリー’	常緑ヤマボウシ‘月光’	オウゴンモチ
科名　属名	バラ科 サクラ属	バラ科 サクラ属	モクレン科　モクレン属	ミズキ科 ミズキ属	モチノキ科　モチノキ属
樹木写真					
事例場所	大田区大森四丁目（東邦医大通り）	中央区日本橋本町二丁目	昭島市拝島町	千代田区神田神保町二丁目（さくら通り）	千代田区神田淡路町二丁目
特徴　常緑/落葉	落　葉　樹	落　葉　樹	落　葉　樹	常　緑　樹	常　緑　樹
特徴　開花時期	3月下旬～4月上旬	2月下旬～3月	3月下旬～4月上旬	5月下旬～7月	－
特徴　果　実	6月頃	通常は実らない	－	10月頃	12月～3月
特徴　樹　高	5～8m	3～5m	5～8m	5～8m	5～8m
維持管理　耐病害虫性	普通 アメリカシロヒトリに注意	普通 アメリカシロヒトリに注意	強い	強い	普通
維持管理　剪定頻度	3～5年毎	3～5年毎	3～5年毎	2～3年毎 夏以降の剪定に注意する	3～5年毎
特徴・特性	サクラ類は、東京の街路樹ではハナミズキ、イチョウに次いで多く、人気が高い。 ソメイヨシノより濃いめの花が特徴的である。	ソメイヨシノに先駆けて開花する。 小輪だが艶やかな紅色の花を下向きにつける。枝は横に広がらず場所をとらない。	花つきの非常によい品種で、若木のうちから開花する。 マグノリア類では最も端正な樹形で観賞性が高い。	常緑なのに紅葉し、白い花、赤い実と四季折々に楽しめる。 落ち葉がなく、沿道の方々への影響が小さい。	春から夏に葉が黄金色に変化し、輝くような黄金色になるのが特徴。 モチノキよりも生育が遅い。 シンボルツリー、景観樹に適している。

3　足もとの緑について

これまでの植樹帯整備

現況写真
樹種：オオムラサキツツジ

学識経験者の意見に基づき

学識経験者の意見

＜課題＞

・ゴミを捨てられやすい
・下枝が枯れる
・刈込が必要
・雑草など生えて美しくみえない

＜提案＞

・高木の美しさを際立たせるため、地面はすっきりしたほうが美しい

・ガーデンとしての利用を推奨（花植えなど）

・手入れが重要なので、区・企業・住民などが連携する必要がある

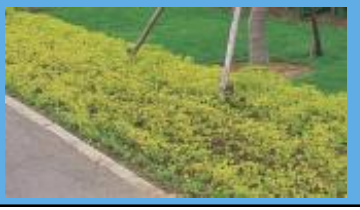
花壇として整備したイメージ

写真：銀座通り
樹種：ジャノヒゲ、マリーゴールド

すっきりした低木地被類を植栽

沿道に住む人･学校･企業と区が連動し、小まめにお世話＜アダプト制度＞

樹種を見直したイメージ

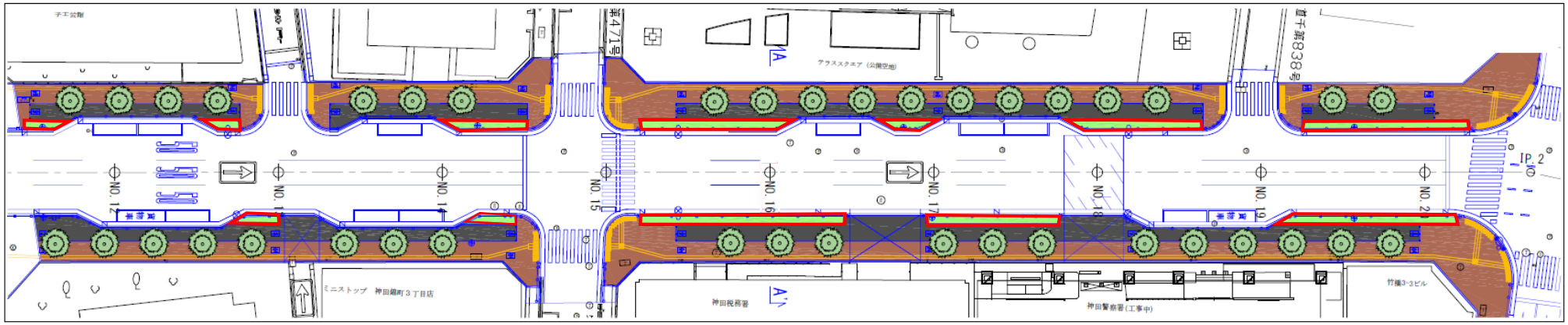


地面はすっきりした植樹帯を選定

丈夫で、通行者に当たらないような拡がりにくい樹種を選定

３　足もとの緑について

植樹帯の箇所　Ⅱ期工事区間



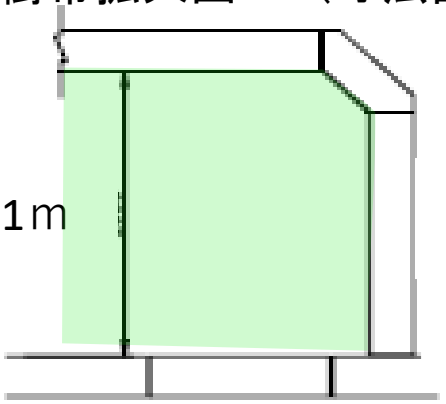
白山通り

千代田通り

白山通りから千代田通りの区間

植樹帯の位置

植樹帯拡大図　（寸法記入）



4　新たな景観の維持管理について

・良好な道路空間を確保するため地域との連携

◆アダプト制度の概要

アダプトとは、自治体の管理する公共施設の管理を官民協働で行う取り組み。

千代田区に限らず、都内の様々な自治体で導入され、実績が増えている。

◆千代田区での取り組み

町会・商店会・学校・ボランティア団体・企業などが区道や公園で、草花の植付、管理や清掃を行っている。

◆実施事例(千代田区)

・早稲田通り
・錦華通り
・清水谷公園
公園や道路などで23団体とアダプト締結

◆効果

地域の方々と交流が増える

植栽に愛着が持てる

地域の活性化・イメージアップ

アダプト制度実施の様子(番町学園通り)